

令和6年度版「学力向上ポータルポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立常盤小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を含めた基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 習熟の不十分な教科・領域等があることから、学年毎の特性を考慮しながら習熟を図っていく必要がある。また、個人差の幅をなるべく小さくできるように、学習支援の在り方を工夫・改善していきたい。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の単元における振り返りとして、小論文を継続して取り入れてきたことで、学習してきた内容を再整理していくことが思考の深化につながっているため、今後も継続して取り組ませていきたい。 学年の発達段階に応じて、小集団の意見交換を通して自分の考えをまとめていく活動や、収集した情報を関連付けて考察する活動を積極的に取り入れ、「考える力」を伸ばしていけるようにしたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、国語の主語・述語の対応関係は多くの学年で課題がみられた。 <指導上の課題> 定着度に個人差があり、児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ少なくしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールタッシュボードの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりと、学習の個別最適化を図る。【1月1回以上指導方針を確認】 ・スタディサプリやドリルパークなどを活用し、課題に関連した問題に繰り返し取り組む機会を設ける。【(前)学習、家庭学習等で実施】 ・単元ごとに小論文に取り組みさせ、その単元での学習を振り返り、内容の定着を図る。【各教科の単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、算数では、適切なグラフの選択や単位量あたりの大きさを比較する際の立式等、根拠を明確にすることについて課題がみられた。 <指導上の課題> 内容を直接学習する単元が少なく、繰り返し取り組み思考を深める機会が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数では、問題の立式に際して数量を吟味・検討し、妥当性を確認する活動を取り入れるなど、常に課題を意識した学習過程を組み込む。【授業毎に設定】 ・他教科でグラフを取り扱う際、読み取り方のポイントを示すなど、視覚情報から多面的に思考できるようにする。【関連教科で実施】 ・ICTの活用を進め、協働学習を通じた「本気の学び」を引き出す授業を展開し、児童一人ひとりの思考を深化させる。【授業毎に実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルパーク、スタサプ等の学習アプリの活用やSA等による個別指導により、基礎・基本の定着や個々への対応を充実させることができた。ICTの活用を向上させることで学習の最適化についてはできたものの、スクールタッシュボードの活用については課題が残るため、方法について検討していきたい。 ・昨年度までの課題に対する指導を、各学年の発達段階に応じて行ってきたことにより、成果が見られた内容が多かった。
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎の小論文での学習の振り返りを繰り返し取り組むことで、その内容が充実し、学習内容の定着と思考の深化につながった。また、ICTの活用や小集団活用による協働学習を積極的に取り入れたことで、相互のコミュニケーションが活性化し、思考を深めることにつながっていた。今後も継続していくことで、さらに充実した活動ができるものと考えている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・国語及び算数の「知識・理解」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、昨年度の市学習状況調査で課題となっていた、主語と述語との関係を抑える問題において、全国平均を大きく上回る結果となっている。 ・算数では、問題場面の数量関係を捉えて立式したり、その計算を行ったりすることについて、全国平均を大きく上回る結果となっている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・国語及び算数の「思考・判断・表現」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する点に課題がある。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう記述することができていない割合が高かった。 ・算数では、表やグラフから必要な数値を読み取り、言葉や式を用いて記述することに課題があった。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう解答ができていない割合が高かった。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の市平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 ・理科では「粒子」を柱とする領域での物の体積と温度の関係について、また、「地球」を柱とする領域での地層の形成と堆積物の関係について、正しく理解されていない結果となっており、可視化することが難しい事象についての概念的理解と定着に課題が見られた。 ・算数では「データの活用」におけるグラフの正しい読み取りに課題が見られ、その習熟が必要である。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の市平均を上回っており、前年度までと同程度の水準を維持している。学習ツールとしてのICT活用と従来の学び合いがバランスよく実施されてきた成果と考える。 ・国語では「話すこと・聞くこと」において、意見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめることに課題が見られ、要点を捉えた話の聞き方が身に付くような指導の工夫が必要である。 ・社会では「歴史と人々の生活」で、年表や具体的史実から何がどのように行われたか、その過程を読み取ったり考えたりすることに課題が見られ、読み取った情報の整理や関連付けて考えられるような指導の工夫が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に昨年度の課題と改善策を周知し、各教科でそれを意識した指導を行っている。基礎・基本の定着について、ICTの活用を中心に据えた個別最適化指導をこれからも継続して行うことにより、高めていけるようにしていきたい。 	変更なし
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科でのまとめや振り返り等、思考場面での目的に沿った、自分の考えを記述する活動を取り入れ、指導を行ってきた。今後もその指導を継続することで、目的や意図に応じて自分の考えをまとめる力を高めていきたい。 	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)